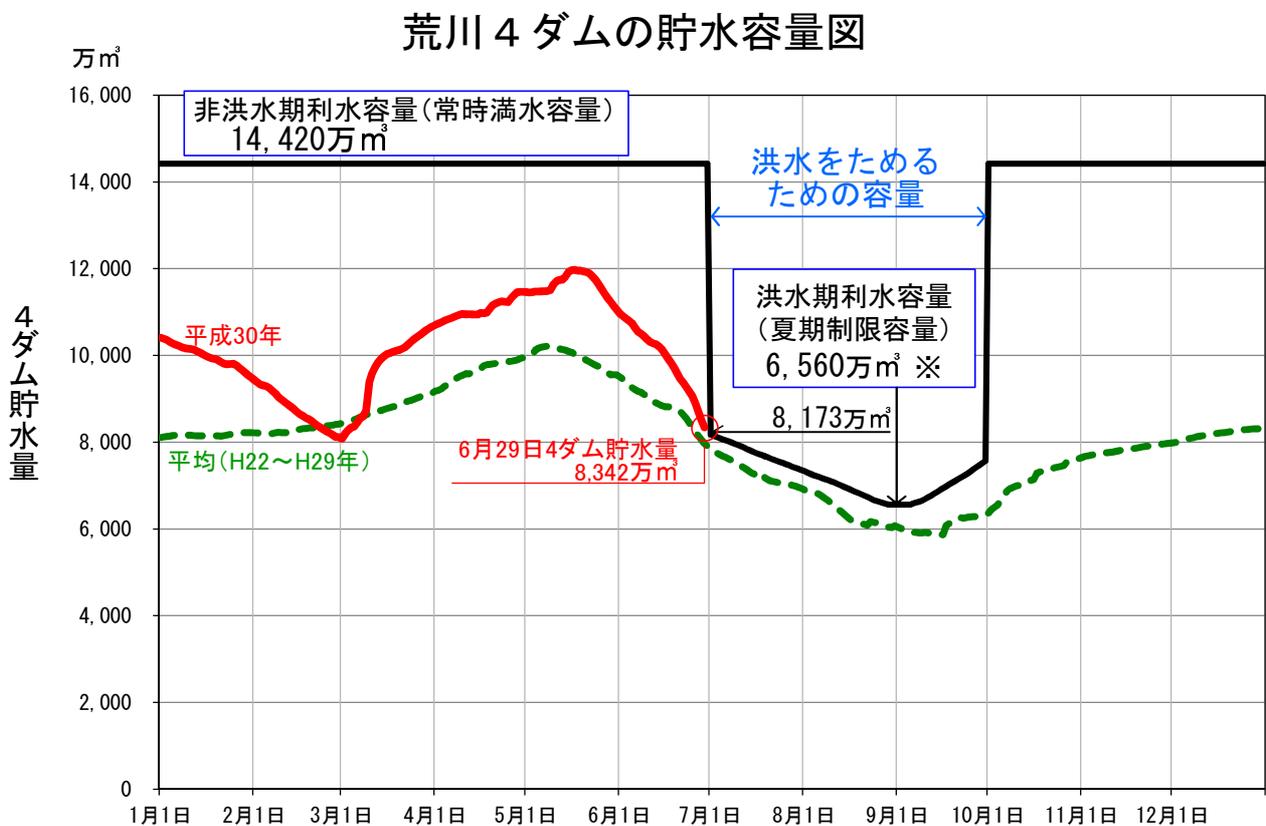


## ダムの「貯水率」の表記が変更になります

荒川において国・水資源機構が管理する、治水と利水を目的とする多目的ダムは、洪水を貯める容量を確保するため、毎年7月1日より9月30日までの期間、利水のために貯留可能な容量が制限されます。

このため、ダムの貯水率の表記が変わります。



### ●貯水率の計算式

$$\text{当日の貯水量} \div \underline{\underline{\text{貯水容量}}} \times 100\%$$

- ・ 6月30日までは、常時満水容量の14,420万 $m^3$
- ・ 7月1日から9月30日までは、8,173万 $m^3$ から6,560万 $m^3$ までの日々容量。

※二瀬ダムでは、水利用のために必要な水量の関係から、日々の必要な容量が設定されています。

例えば、6月29日の4ダム貯水量8,342万 $m^3$ が、このまま7月1日まで増減なく推移したとすると・・・

【6月28日～30日の貯水率】

ダム名	有効容量 (万 $m^3$ )	貯水量 (万 $m^3$ )	貯水率
二瀬ダム	2,000	1,495	75 %
滝沢ダム	5,800	2,683	46 %
浦山ダム	5,600	3,346	60 %
荒川貯水池	1,020	818	80 %
4ダム合計	14,420	8,342	<b>58 %</b>

【7月1日の貯水率】

ダム名	有効容量 (万 $m^3$ )	貯水量 (万 $m^3$ )	貯水率 (%)
二瀬ダム	1,613	1,495	93 %
滝沢ダム	2,500	2,683	107 %
浦山ダム	3,300	3,346	101 %
荒川貯水池	760	818	108 %
4ダム合計	8,173	8,342	<b>102 %</b>

このように6月30日の貯水率58%が、翌日の7月1日には102%の表記となります。貯水率が大きくなるのは、ダムの貯水が増えるのではなく、ダムに貯められる限度の容量が小さくなるためです。